

障害者支援施設における宿泊旅行の提供に関するアンケート調査結果

I. アンケート調査の概要

1. 調査目的

本調査は、北海道内の障害者支援施設での余暇活動における宿泊旅行の実施状況を明らかにし、継続的に宿泊旅行を実施して行くために必要な方策について基礎的な資料を得るために行った。

2. 実施期間

平成 25 年 10 月 28 日（月）～11 月 15 日（金）

3. 調査対象

北海道内の施設入所支援サービスを提供している障害福祉サービス事業所 211 施設

II. アンケート調査結果

1. 調査結果

(1)有効回収数

今回実施したアンケート調査の有効回収数、回収率は Table1-1 の結果となった。

Table1-1 有効回収数

発送数	回収数	回収率
211	135	64.0%

(2)「回答者の属性について」の回答結果

Figure2-1 から 2-3 はアンケート回答者の属性について表したものである。Figure2-1 は「回答者の性別」を表したものである。女性に比べ男性の回答者が多く、全体の 82.7%を占めた。Figure2-2 は「回答者の年齢(年代)」を表したものである。20代が全体の 4.4%、30代が 23.0%、40代は 37.0%と最も多かった。次いで多かったのは 50代の 32.6%であった。その他、60代が 2.2%、70代は 0.7%であった。Figure2-3 は「福祉施設での支援者としての経験年数」と「現在の所属施設での勤務年数」を表したものである。回答者の福祉施設での支援者としての経験年数と現在の所属施設での勤務年数を集計した結果、最も多かったのは「10年以上」で全体の 81.5%

が福祉施設での支援者としての経験経験があり、67.4%が現在の所属施設で10年以上勤務しているということであった。Table2-1は回答者の所属を示したものである。

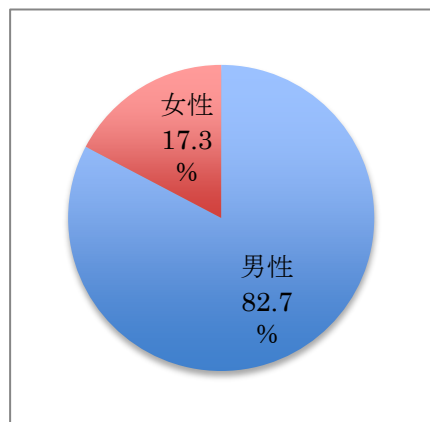


Figure2-1 回答者の性別 (N=133)

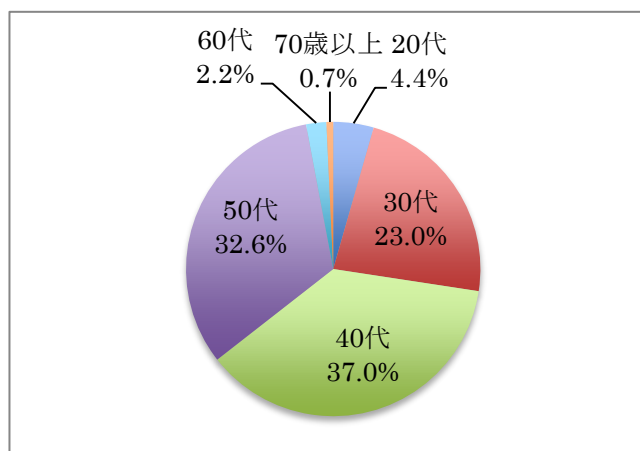


Figure2-2 回答者の年齢 (年代) (N=135)

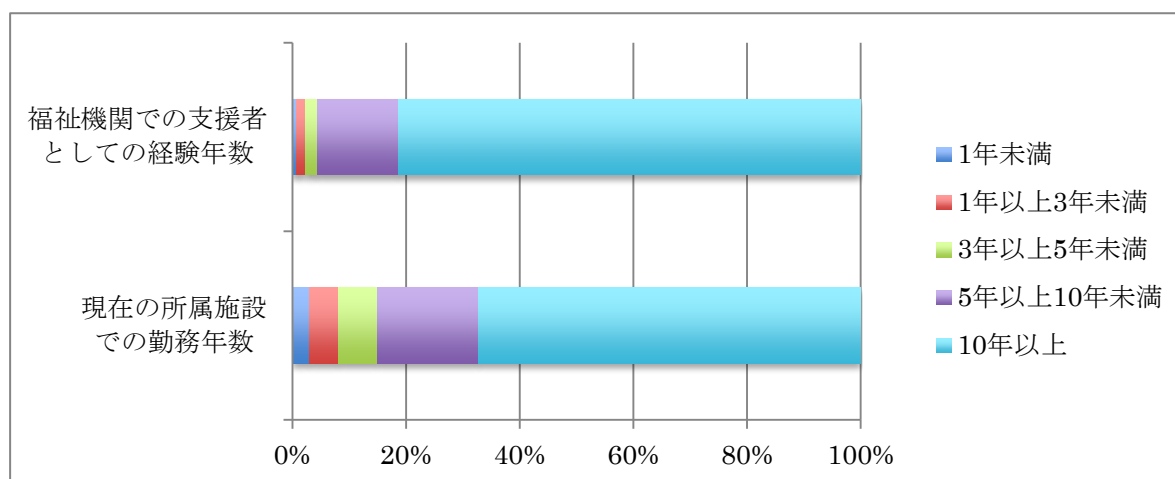


Figure2-3 福祉施設での支援者としての経験年数と現在の所属施設での勤務年数 (N=135)

Table2-1 回答者の所属部署

支援課 (32人)	総務課 (7人)	管理職、事務 (5人)	施設長 (4人)
副施設長、支援課長、支援部、支援員、生活介護課、生活支援員、庶務、福祉課 (2人)			
施設運営、入所支援課、生活相談主幹、生活相談員、生活支援部、生活支援部支援課、生活支援課、生活科、支援課支援主任、支援係相談員、活動支援係、男子部、デイ活動部、相談企画係、旧館支援、介護課、指導課長 (1人)			
無記入 (49人)			

(3) 「2012年度の旅行の実施状況について」の回答結果

Table3-1は各施設における2012年度の日帰り旅行と宿泊旅行の実施状況について示している。また、Figure3-1、3-2はそれぞれ日帰り旅行と宿泊旅行の実施状況について示すものである。日帰り旅行を「定期的に毎月実施した」施設は9件(6.7%)、「年に何度か実施した」施設は101件(74.8%)、「以前は実施していた」施設は6件(4.4%)、「実施していない」施設は12件(8.9%)であり、「年に何度か実施した」施設が最も多かった。宿泊旅行を「定期的に毎月実施した」施設は2(1.5%)、「年に何度か実施した」施設は98件(72.6%)、「以前は実施していた」施設は18件(13.3%)、「実施していない」施設は17件(12.6%)であり、こちらも「年に何度か実施した」施設が最も多かった。日帰り旅行と宿泊旅行を比べると、宿泊旅行では、毎月定期的にも実施した施設は日帰り旅行に比べると少なく、以前は実施していたが2012年度は実施していないと回答した施設が日帰り旅行よりも多かった。

Table3-1 2012年度の旅行の実施状況

	日帰り旅行	宿泊旅行
定期的に毎月実施した	9	2
年に何度か実施した	101	98
以前は実施していた	6	18
実施していない	12	17
無記入	7	0

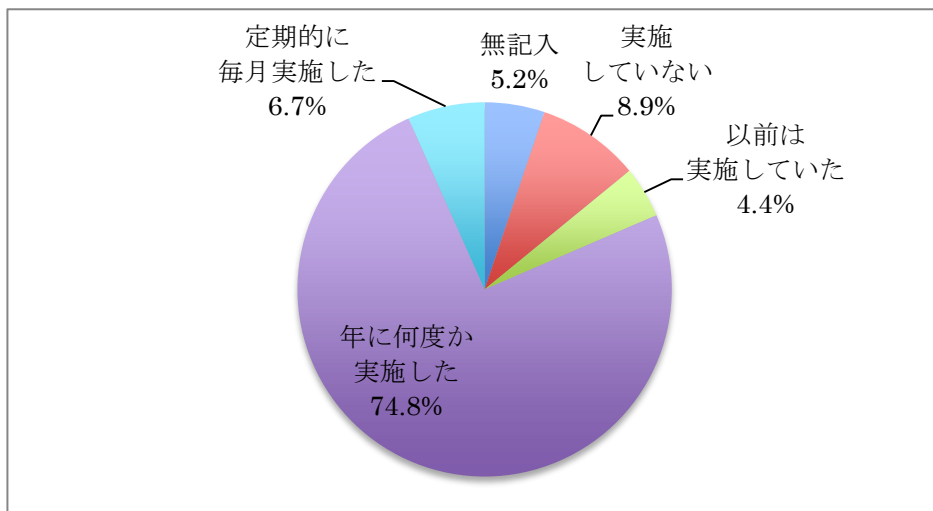


Figure3-1 2012年度の日帰り旅行の実施状況 (N=135)

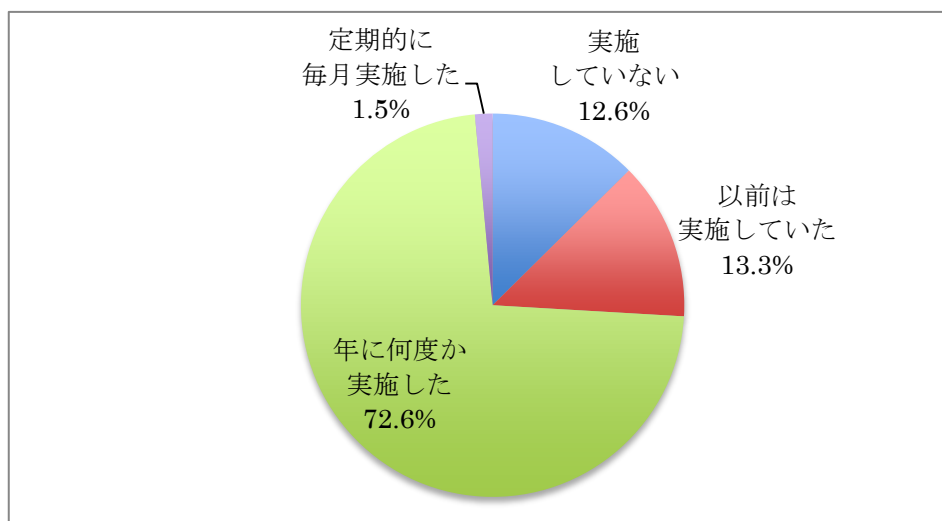


Figure3-2 2012年度の宿泊旅行の実施状況 (N=135)

(4) 「実施された宿泊旅行について」の回答結果

Figure4-1 から 4-8 は 2012 年度に実施された宿泊旅行の実施概要について示すものである。Figure4-1 は実施された宿泊旅行の宿泊数の割合を表したもので、「1泊2日」が全体の81.7%と最も多く、続いて「2泊3日」が11.3%、「3泊4日」が6.1%、「4泊5日以上」が0.9%と、泊数が伸びるにつれ実施状況は少なくなっている。Figure4-2 は参加対象者を表したもので、全体の67.9%が「利用者のみ」の参加する旅行で「利用者と家族」は32.1%であった。Figure4-3 は旅行の帯同者を表したもので、全体の92.0%が「施設職員のみ」で実施されているもので、「施設職員とボランティア」が帯同した旅行は8.0%であった。Figure4-4 は旅行先を表したもので、

「道内」は全体の85.3%と最も多く、「道外」は12.1%、「国外」は2.6%であった。道外の旅行先としては東京都や沖縄県が多く挙げられ、他にも青森県、福島県、大坂府、四国地方、熊本県などがあった。国外の旅行先は、グアムと台湾の2箇所であった。Figure4-5は旅行に係る費用を誰が負担したか表したもので、全体の60.2%が「利用者負担」であった。「一部利用者負担」は22.9%、「施設負担」の旅行は全体の16.9%と少なかった。Figure4-6は参加者の人数を表したものである。「5人以下」が全体の16.1%、「6～10人」が16.9%、「11～20人」が21.8%、「21～50人」が28.2%、「51～99人」が12.9%、「100人以上」が4.0%であった。Figure4-7は利用した交通機関について表したものである。「借り上げバス」が全体の46.0%と最も多く、次いで「施設のバス」が24.0%、「飛行機」が8.7%、「電車」が8.0%、「タクシー」が6.0%であった。また、その他の回答には施設の車両（バス以外）や公用車、福祉車両、公共バスなどもみられた。Figure4-8は旅行の企画は誰が考えたものかを表したものである。全体の54.3%が「施設職員が企画」したもので、「旅行会社に依頼」したものは36.2%、「旅行会社のプランを利用した」ものは9.4%であった。

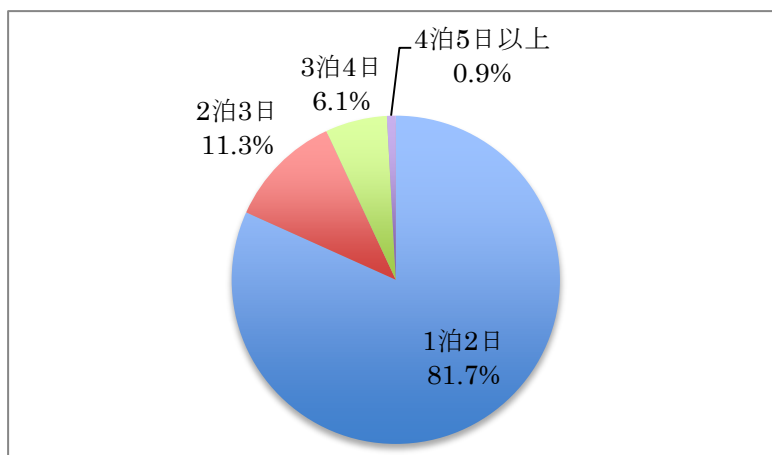


Figure4-1 実施された旅行の宿泊数 (N=115)

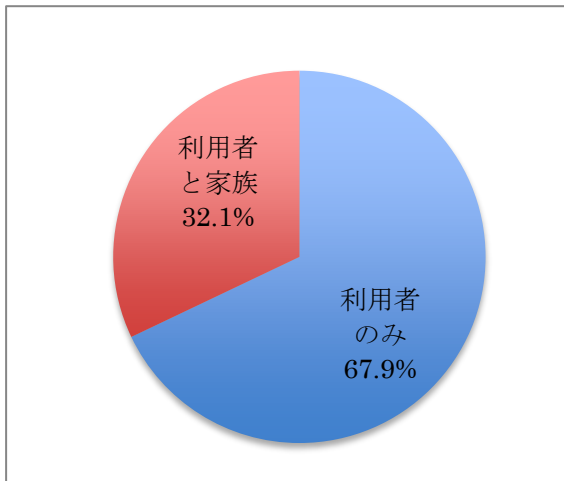


Figure4-2 旅行の参加対象者 (N=108)

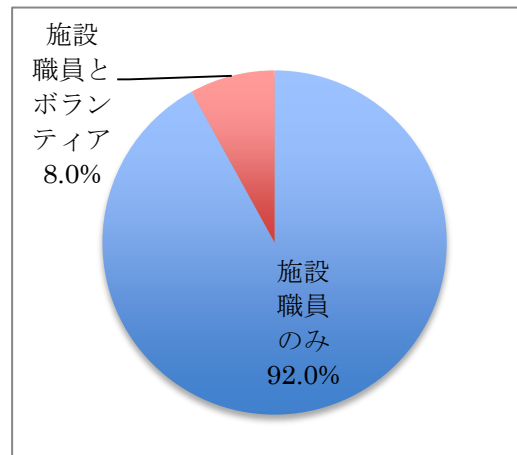


Figure4-3 旅行の帯同者 (N=100)

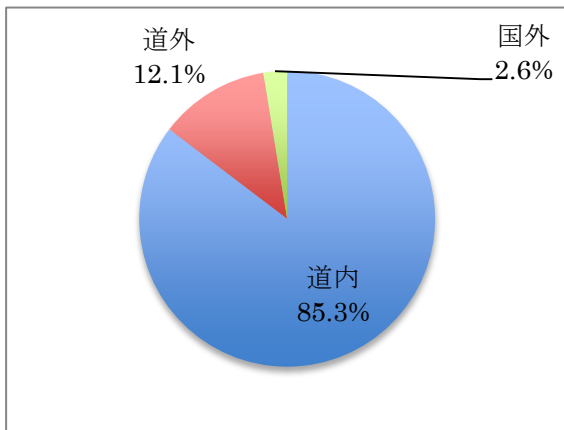


Figure4-4 旅行先 (N=116)

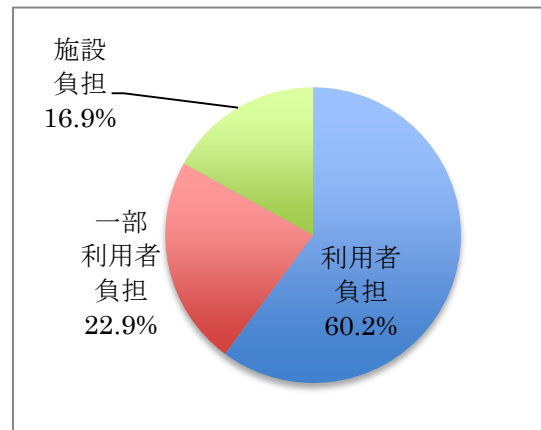


Figure4-5 旅行の参加負担金 (N=118)

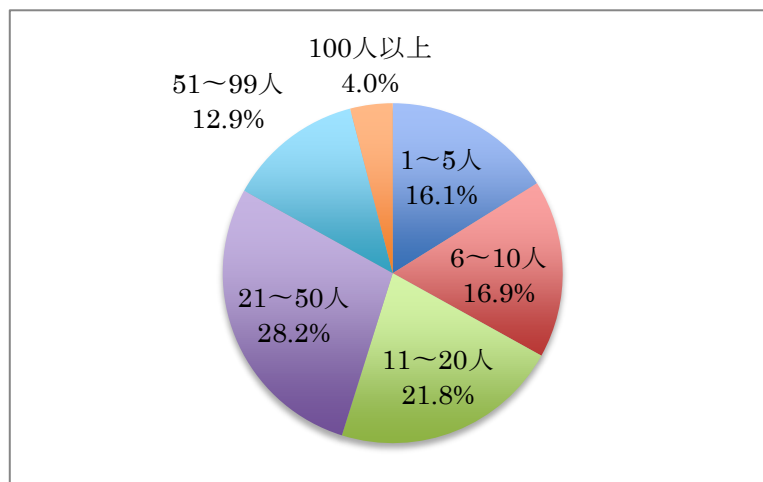


Figure4-6 旅行の参加者人数 (N=124)

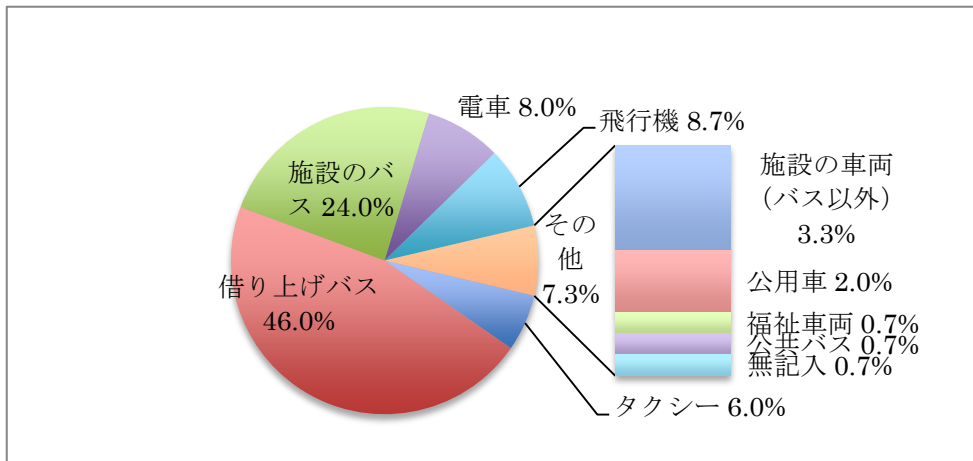


Figure4-7 利用した交通機関 (N=150)

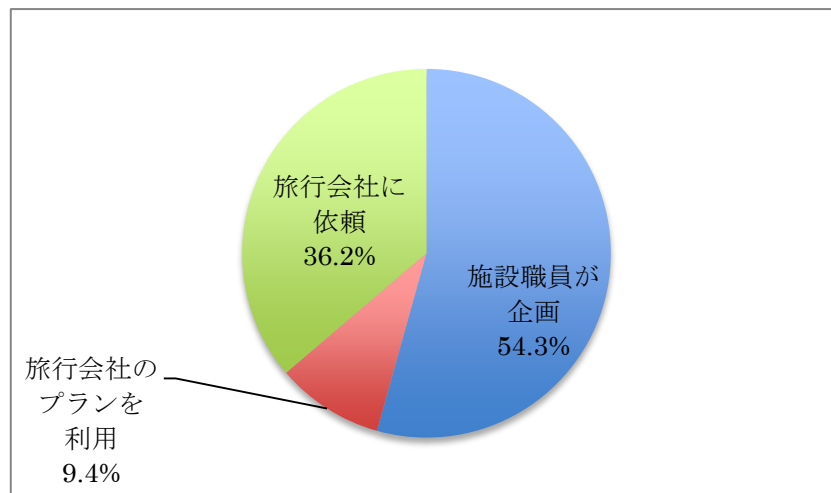


Figure4-8 旅行の企画 (N=127)

(5) 「宿泊旅行を実施しなかった理由について」の回答結果

Table5-1 は(2)「2012年度の旅行の実施状況について」の回答結果の中で、「以前は実施していた」「実施していない」と回答した施設を対象に調査したもので、2012年度に宿泊旅行を実施しなかった理由について示したものである。その理由として最も多く回答されたのは、「帯同スタッフが確保できない」で24件(70.6%)あった。次いで「利用者のADLにより実施できない」が19件(55.9%)、「職員・臨時職員への負担が増す」が18件(52.9%)、「費用がかかりすぎる」が14件(41.2%)、「障害者自立支援法施行に伴い施設収入が減少」が13件(38.2%)、「事業内容に含まれていない」が12件(35.3%)、「利用者のニーズがない」「きっかけがない」がともに5件(14.7%)、「日帰り旅行で十分」が4件(11.8%)、「企画をする職員がいない」「企画をする時間がない」「利用者家族からの理解が得られない」「施設側の理解が得られない」「バリアフリー旅

行についての知識がない」「実施までの手続きが大変」がそれぞれ3件（8.8%）、「信頼できる旅行会社がない」が1件（2.9%）であった。また「その他」の回答も13件（38.2%）あった。「その他」の自由記述欄に記載された理由について記述内容を Table5-2 に示した。

Table5-1 宿泊旅行を実施しなかった理由

No.	理由	件数(N=34)	%
1	帯同スタッフが確保できない	24	70.6%
2	利用者の ADL により実施できない	19	55.9%
3	職員・臨時職員への負担が増す	18	52.9%
4	費用がかかりすぎる	14	41.2%
5	障害者自立支援法施行に伴い施設収入が減少	13	38.2%
6	事業内容に含まれていない	12	35.3%
7	利用者のニーズがない	5	14.7%
8	きっかけがない	5	14.7%
9	日帰り旅行で十分	4	11.8%
10	企画をする職員がいない	3	8.8%
11	企画する時間がない	3	8.8%
12	利用者家族からの理解が得られない	3	8.8%
13	施設側の理解が得られない	3	8.8%
14	バリアフリー旅行についての知識がない	3	8.8%
15	実施までの手続きが大変	3	8.8%
16	信頼できる旅行会社がない	1	2.9%
17	その他	13	38.2%

Table5-2 「宿泊旅行を実施しなかった理由」記述内容

平成 18 年 11 月以降児童施設(障がい児入所施設)も利用契約制度となり、自己負担が必要となり、高等部を卒業してから 20 歳になるまで障害年金もなく、自己負担が大きくなるので旅行には行かなくても良いという方もおり、行ける利用者、行けない利用者と差が出てしまう。
児童施設から成人施設に今年度から移行した為昨年度の実績がないため。
2012 年は当施設新体制に移行した年でした。既に移行した施設から職員の確保が難しいと言われてしまいましたので、昨年については見送り、様子を見ることにしました。
2012 年度に、勤務状態が当直から夜勤に変わり、職員の人数が確保が困難が予想された。
2011 年度末に職員の退職や入れ替わりが多くあり、旅行に帯同するスタッフを確保出来なかった。
利用者の高齢化・障害の重度化
重度・高齢の利用者が多い。
自閉症の利用者が多く、障がいの特性上、利用者の負担になるため。
一部の利用者に体調面、情緒面に課題があるため。
長時間の移動に耐えられない利用者が多い。
利用者さんの特性によりバリアフリーなどの面で実施に難あり。
車椅子利用の為移動手段が確保できない。
介護料が多く、宿泊先での設備が望めない。
体験する機会を提供し、楽しいことを感じてもらえば、後は自ら旅行するのが自立支援と考えているから。

(6) 「宿泊旅行について」の回答結果

Figure6-1 は宿泊旅行について 5 段階評価で回答した結果を示したものである。「宿泊旅行を希望する利用者が多い」という質問では「とてもそう思う」と「ややそう思う」と肯定的な評価が全体の 72.6%を占めた。「人気の高いイベントである」という質問では「とてもそう思う」と「ややそう思う」と肯定的な評価が全体の 77.1%を占めた。「宿泊旅行よりも日帰り旅行の方が重要である」という質問では「どちらともいえない」が全体の 65.9%を占めた。「宿泊旅行を企画・実施していきたい」という質問では「とてもそう思う」と「ややそう思う」と肯定的な評価が全体の 74.8%を占めた。「定期的実施するのは難しい」という質問では「とてもそう思う」が 20.7%、「ややそう思う」が 28.1%、「どちらともいえない」が 14.8%、「あまりそう思わない」が 21.5%、「全くそう思わない」が 11.1%とあまり差はみられなかった。

Figure6-2 は宿泊旅行について 5 段階評価で回答した結果を、宿泊旅行を実施した施設としていない施設に分けて示したものである。「宿泊旅行を希望する利用者が多い」「人気の高いイベントである」「宿泊旅行を企画・実施していきたい」という質問について、実施した施設ではそれぞれ

れ9割近くが「とてもそう思う」「ややそう思う」と肯定的な回答をしている。「宿泊旅行よりも日帰り旅行の方が重要である」という質問では、どちらの施設も「どちらともいえない」と回答したものが多かった。「定期的を実施するのは難しい」という質問では、実施していない施設で7割近くが「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答。実施した施設では、「とてもそう思う」「ややそう思う」と回答施設と「あまりそう思わない」「全くそう思わない」と回答施設が共に4割ほどであった。

「定期的を実施するのは難しい」と感じる理由について自由記述欄に記載されていた記述内容をTable6-1に示した。最も多かった内容は「利用者の重度化・高齢化（身体状況の悪化）」について書かれているものであった。次いで多かった回答内容は「人員の確保」「費用の捻出」「利用者の特性・ADL」についてであった。他にも小数意見として「行き先が限られる」「他行事との関係」「長時間の移動が厳しい」「利用者の個々のニーズに沿った計画を立てたい」「夜勤勤務が必要なサービスのため」「年齢層の多様化」「学校との関係」「入浴の制限」「食事面での不安」「ニーズの多様化」などの回答もあった。

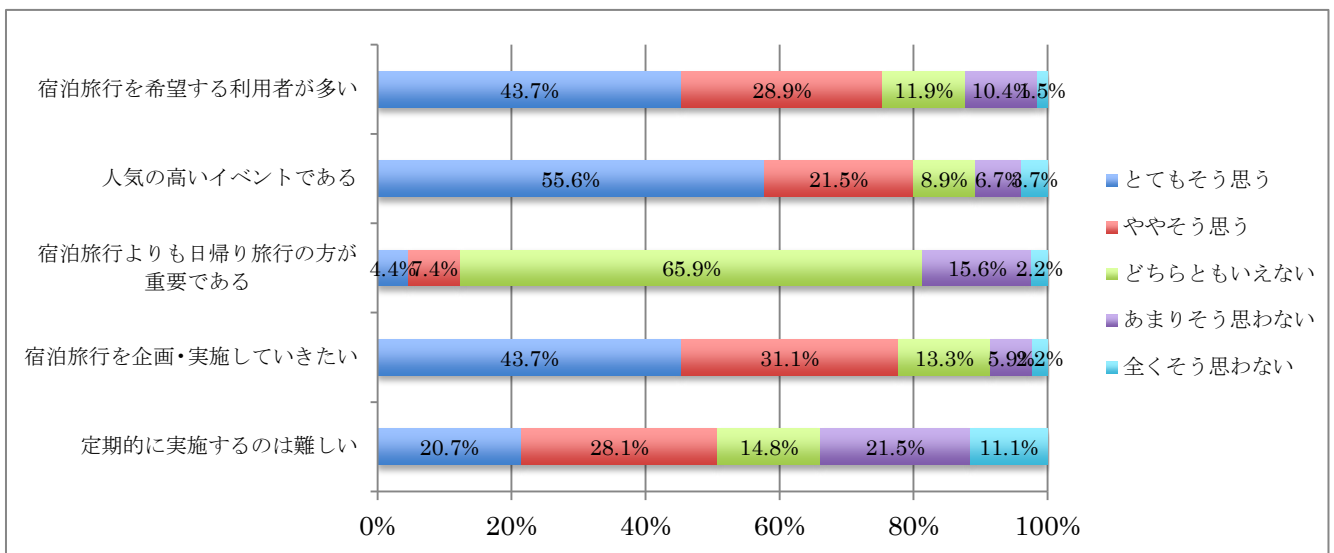


Figure6-1 宿泊旅行について (N=130)

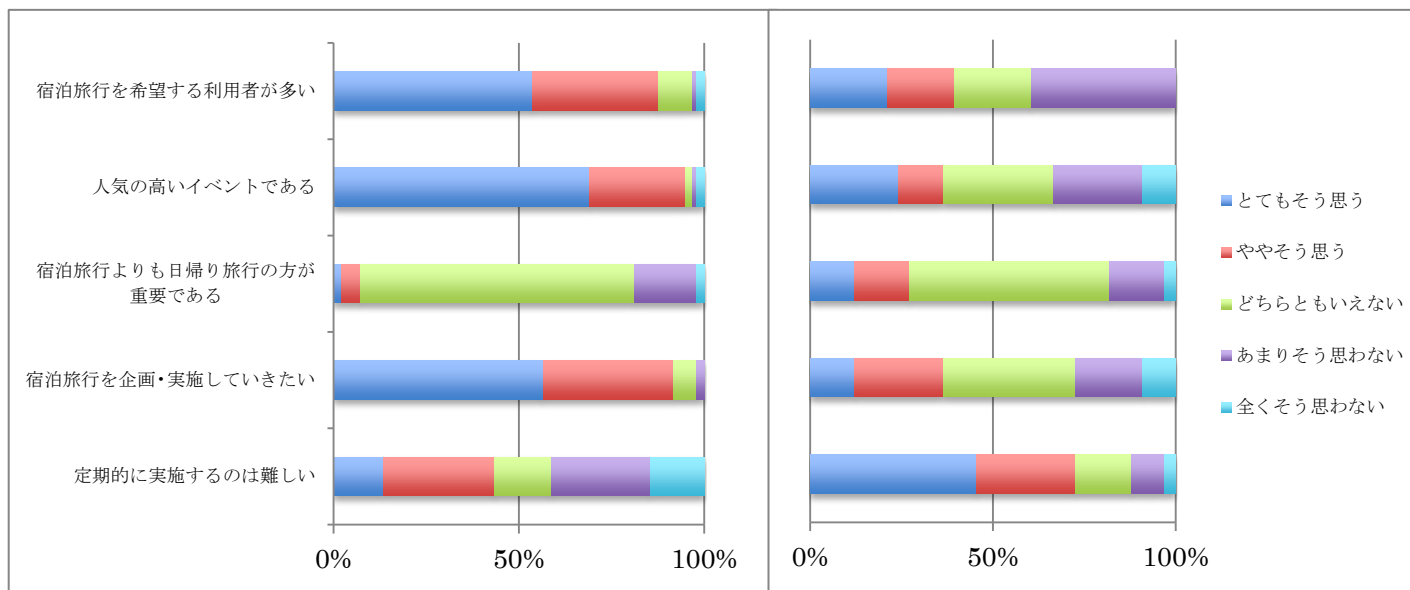


Figure6-2 宿泊旅行について 左：実施した施設 (N=97) 右：実施していない施設 (N=33)

Table6-1 「定期的を実施するのが難しい理由」記述内容

	回答数 (N=57)
利用者の重度化・高齢化 (身体的状況の悪化)	22
人員の確保	16
費用の捻出	15
利用者の特性・ADL	14
長時間の移動が厳しい	2
夜勤勤務が必要なサービスのため	2
行き先が限られる	1
利用者の個々のニーズに沿った計画を立てたい	1
他行事との関係	1
年齢層の多様化	1
学校との関係	1
入浴の制限	1
食事面での不安	1
ニーズの多様化	1

(7) 「宿泊旅行を継続的に提供していくために必要なものについて」の回答結果

Table7-1 は宿泊旅行を継続的に提供していくために必要であると考えたものについて選択された項目を示したものである。「帯同スタッフの確保」が最も多く 97 件で全体の 71.9% を占めた。次いで「利用者からのニーズの高さ」が 82 件 (60.7%)、「費用面での割引制度や補助金などの充実」が 67 件 (49.6%)、「旅費の安さ」が 61 件 (45.2%)、「参加者家族からの理解」が 55 件 (39.3%)、「ハード面でのバリアフリー化」が 53 件 (39.3%)、「旅行会社に障害者用のツアーを企画できる人がいる」が 38 件 (28.1%)、「旅行会社に障害者用の旅行プランがある」が 37 件 (27.4%)、「参加者の ADL が自立している」が 34 件 (25.2%)、「施設側の理解」が 28 件 (20.7%)、「バリアフリー旅行について知識を持っている職員」が 25 件 (18.5%)、「実施までの手続きの容易さ」が 8 件 (5.9%)、「企画する職員が旅行好きであること」が 7 件 (5.2%) であった。また「その他」の回答も 16 件 (11.9%) があった。「その他」の自由記述欄に記載された記述内容を Table7-2 に示した。

Table7-3 は宿泊旅行提供に必要なものを実施した施設と実施していない施設に分けて回答結果を示したものである。実施した施設と実施していない施設共に最も回答の多かったものは「帯同スタッフの確保」であった。

Table7-1 宿泊旅行を継続的に提供していくために必要なもの

No.	項目	件数(N=135)	%
1	帯同スタッフの確保	97	71.9%
2	利用者からのニーズの高さ	82	60.7%
3	費用面での割引制度や補助金などの充実	67	49.6%
4	旅費の安さ	61	45.2%
5	参加者家族からの理解	55	40.7%
6	ハード面でのバリアフリー化	53	39.3%
7	旅行会社に障害者用のツアーを企画できる人がいる	38	28.1%
8	旅行会社に障害者用の旅行プランが豊富にある	37	27.4%
9	参加者の ADL が自立している	34	25.2%
10	施設側の理解	28	20.7%
11	バリアフリー旅行についての知識を持っている職員	25	18.5%
12	実施までの手続きの容易さ	8	5.9%
13	企画する職員が旅行好きであること	7	5.2%
14	その他	16	11.9%

Table7-2 「宿泊旅行を継続的に提供していくために必要なもの」記述内容

職員の費用負担は誰がするか（費用面での工夫）
旅行に参加していない利用者のサービスを形骸化させないためのスタッフ確保
利用者のニーズ（希望）にそった旅行
企画する職員の計画・立案能力、リスクマネジメント能力
利用者が楽しめる企画を考えられるか
その都度旅行の目的を決める
参加者への情報提供
帯同スタッフ（職員）の意欲、目的意識の共有化
職員の努力
移動手段の確保
1対1の個別対応
宿泊先との連携、協力体制
宿泊先での介護設備（電動リフト、電動ベッド、特殊浴槽など）
宿泊先や観光先の理解や配慮
制度改正（契約利用制度）

Table7-3 宿泊旅行提供のために必要なもの 実施した施設（左） 実施していない施設（右）

NO.	実施した施設	NO.	実施していない施設
1	帯同スタッフの確保	1	帯同スタッフの確保
2	利用者からのニーズの高さ	2	費用面での割引制度や補助金などの充実
3	費用面での割引制度や補助金などの充実	3	ハード面でのバリアフリー化
4	旅費の安さ	4	利用者からのニーズの高さ
5	参加者家族からの理解	5	参加者家族からの理解
6	ハード面でのバリアフリー化	6	旅費の安さ
7	旅行会社に障害者用のツアーを企画できる人がいる	7	参加者のADLが自立している
8	旅行会社に障害者用の旅行プランが豊富にある	8	旅行会社に障害者用の旅行プランが豊富にある
9	参加者のADLが自立している	9	旅行会社に障害者用のツアーを企画できる人がいる
10	施設側の理解	10	施設側の理解
11	バリアフリー旅行についての知識を持っている職員	11	バリアフリー旅行についての知識を持っている職員
12	企画する職員が旅行好きであること	12	実施までの手続きの容易さ
13	実施までの手続きの容易さ	13	その他
14	その他	14	企画する職員が旅行好きであること

(8)「アンケート回答施設について」の回答結果

Figure8-1 から 8-4 は回答施設の属性についてのアンケート集計結果を示したものである。Figure8-1 は回答施設の施設利用者のおよその定員数を表したものである。「10 人以下」は全体の 1.5%、「11～20 人」は 0.7%、「21～50 人」は全体の 48.9%で最も多かった。「51～100 人」は次いで多く全体の 42.2%であった。また、「101～200 人」は 4.4%、200 人以上は 2.2%であった。Figure8-2 は利用者のおよその平均年齢（年代）を表したものである。「10 代」は全体の 1.5%、「20 代」は 3.8%、「30 代」は 12.8%、「40 代」は 36.8%で最も多かった。次いで多かったのは「50 代」で 29.3%、「60 代」は 13.5%、「70 代」は 2.3%であった。Figure8-3 は利用者の主な障害種を表したものである。知的障害、肢体不自由、脳性マヒ、視覚障害、重度・重複障害（重度心身障害）に 5 種に分類したうち、最も多かったのは「知的障害」で全体の 50.2%であった。「肢体不自由」は 16.2%、「脳性マヒ」は 10.5%、「視覚障害」は 8.7%、「重度・重複障害（重度心身障害）」は 14.4%であった。また回答結果から、回答施設 135 件のうち 44 件（全体の 32.6%）は複数の障害種を受け入れていた。Figure8-4 は回答施設の所在地域について表したものである。道央は全体の 46.7%と最も多かった。次いで道南が 23.0%、道東が 20.0%、道北が 10.4%であった。

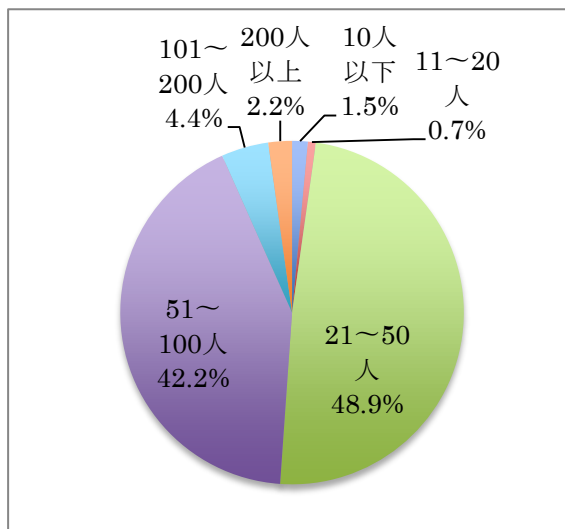


Figure8-1 施設利用者のおよその定員

(N=135)

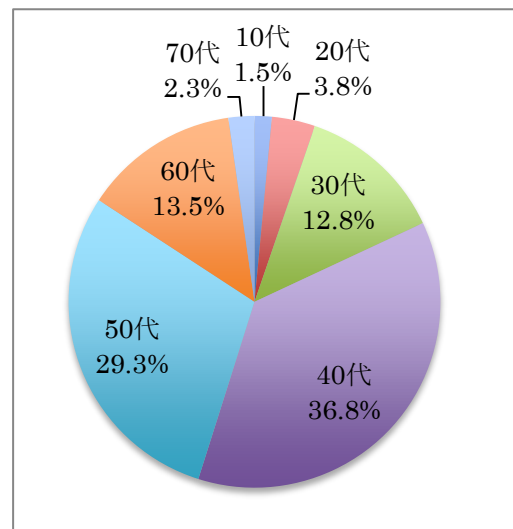


Figure8-2 利用者のおよその平均年齢

(N=133)

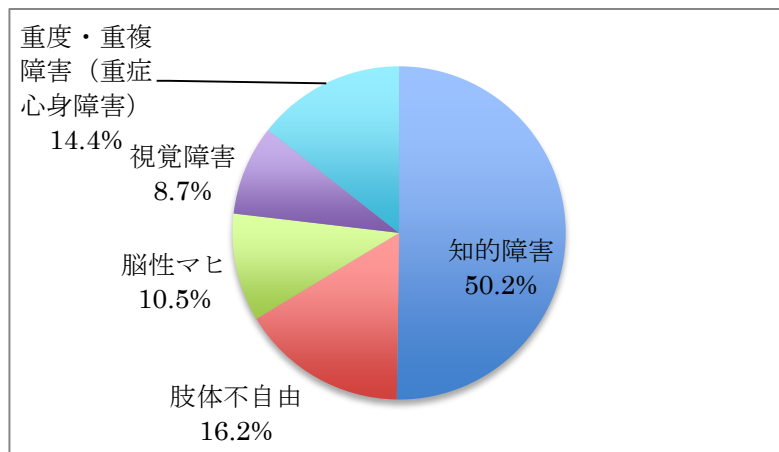


Figure8-3 利用者の主な障害種

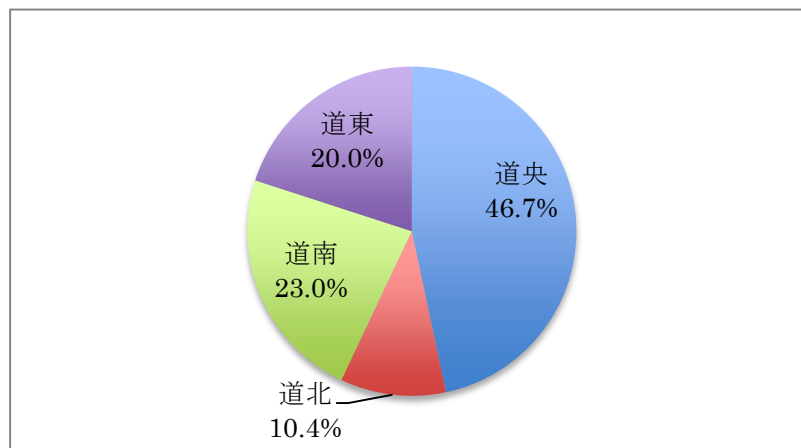


Figure8-4 所在地域 (N=135)

2. 自由記述欄の回答結果について

アンケート調査の中には、回答者への自由記述欄をいくつか設けており、そのうち「北海道内での宿泊旅行についての魅力と課題・要望」、「宿泊旅行を企画・実施する上で留意している点、宿泊旅行についての考え」に対して回答のあった記述の内容について分析を行った。回答のあった全回答について、キーワードをコード化して抽出し、次にコード化されたキーワードをもとにそれぞれの質問内容に関する項目を作成した。さらに作成された各項目について、該当する記述内容が含まれている回答を全て抽出し、その後、記述内容に関してその内容を整理した。なお同じ内容の記述が多様な意味合いを持つ場合は、複数の領域に重複してカウントした。

(1) 「北海道内での宿泊旅行についての魅力」の回答結果

Figure5-3-1 は北海道内での宿泊旅行についての魅力について自由記述欄に記載された内容を分析し、各項目が記載されている記述数を表したものである。記述内容からキーワードを抽出し、その内容について項目をあげたところ、「自然が豊か」「食事が魅力的」「温泉が豊富」「体験活動が豊富」「観光地が豊富」「交通の便が良い」「イベントが豊富」「施設設備が整っている」「近隣に楽しめるものがある」「旅費の安さ」「人がおおらか」「非日常的環境が楽しめる」「アトラクション」「買い物が楽しめる」などがあつた。最も多かった回答は「自然が豊か」「食事が魅力的」であり、それぞれ34件ずつであった。「自然が豊か」と回答された内容には、「景観（風景、景色）が美しい」、「四季折々の景色を楽しむ事が出来る」などの意見が多かった。「食事が魅力的」と回答された内容には、「食材が豊か（地域性（海・山）、季節ごとの旬の食材）」や「地域の特産品が豊富（ご当地グルメなど）」、「食を楽しむプランも多い」などの意見が多かった。

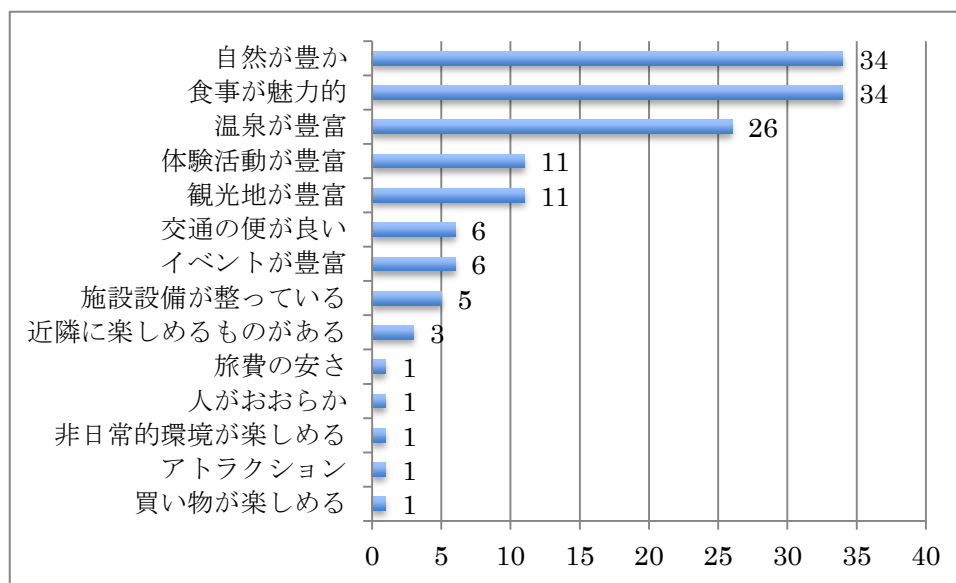


Figure5-3-1 北海道内での宿泊旅行についての魅力に関する各項目の記述数

北海道内での宿泊旅行についての魅力（自由記述回答）

北海道には比較的安価な宿泊可能な施設も多く、利用者主体の旅行には、非常にありがたい事と思う。
自然と食事の豊かさ
雄大な景色と海の幸、山の幸が盛沢山
自然の美しい景観などが豊富である
温泉、果樹園等、比較的近郊に存在している。
移動時の混雑状態が少ない
北海道の魅力は食と自然と温泉です。
自然が豊か。人がおおらかでやさしい。
施設生活からの解放と目的地までの風景を肌で感じ、賑やかに他利用者、職員との親睦を図る。
近距離に温泉が存在する
動物とのふれあい(馬、小動物)や体験活動(アイスクリーム、バター、ガラス工房、陶芸等造り)
道央での日帰り旅行で、十分に楽しめる事から、あえて宿泊を伴う旅行を企画する必要がない。
普段なかなか見ることのできない景色や環境がたくさんある。
温泉が豊富にあること。
車までの移動ができる(利用者さんのニーズに合わせてながら)
道内、各地域に、温泉や名物等がある。
施設の空間が広々としている
自然、買い物やアクティビティ等、個々のニーズに添った観光地が豊富であること。
道外に比べて混雑の度合いが低く、一つひとつの場所がゆったりとしている。食事部分で満足してもらうことができる。
自然体験活動を利用者の希望により選択メニューとして入れることができる。
自然を満喫できること。食の面で素晴らしいこと。
多くの観光スポットがあるが…
おいしい食事と温泉設備が充実している所。
地域生活を送るのに必要な生きがい
おいしい、季節の旬の食材が豊富にある。温泉入浴施設が多数ある。
それぞれの地域に特産品が多いこと。(グルメツアーなど人気)宿泊に温泉などが多くある。(温泉をメインの行事企画)景色が良い。(四季に応じた観光スポットが多くある)
色々な観光施設が北海道は多い。
観光できる所が多くある所。
温泉施設、食事の充実。

近くに温泉が多い。
旅先でのおいしい食事
近場で楽しめるものが多い。
北海道の豊かな食材を生かした食事や多彩なイベントが豊富。
北海道では、四季折々のイベントや自然豊かな場所があります。利用者さんに沢山さん経験して頂たいし、北海道の色々な所を見学させたいと思っています。
非日常的環境がたのしめる。
温泉地が数カ所あり、行き先の選択の幅が広い。「雪」に親しみのない地域の方にとっては景色を見たり雪に触れることだけでも魅力である。
食事が四季折々で美味しい。景色がきれいである。
その地域を感じる事ができる施設。その地域性を感じられる出し物が提供される事。
天然温泉。露天風呂。
バリアフリーでスペースを広く確保しているところ(車イスで通れるということ)。車イスでも体験できるところ。
景観が良い。食べ物が美味しい。
食を楽しむプランが豊富で、利用者の方々も満足できる。
食事、温泉は充実していると思います。
温泉が多い。
自然が豊かで四季を体感できる様々な体験やイベントがある。
北海道らしい景勝地めぐりやおいしい特産物、豊富な温泉。
豊富な自然
障がい者が充実したサービスと配慮がされている施設。宿泊施設内または近隣に楽しむことのできる場所があること。
障がい者が充実したサービスと配慮がされている施設。宿泊施設内または近隣に楽しむことのできる場所があること。
見て楽しむ事だけでなく、何かを作ったり感じたりできる体験メニューの豊富さ。
食べ物がおいしい。自然が美しい。温泉が楽しめる。
道内各所に農畜産物、海産物などおいしいものがどこに行っても食べられる。
四季を通して楽しめるイベントがたくさんある。体験しながら遊ぶことができる場所がたくさんある。
日頃食するのが難しいご当地グルメを楽しむ。
札幌は近郊に定山溪や朝里川温泉など短時間で移動する事ができる事が最大の魅力である。また、四季折々の景色を楽しむ事ができる。多数の福祉施設が利用する事により受け入れるホテル側のスタッフ教育も年々向上してきており、対応など非常に良い。

自然が豊かなので景観を楽しむことができ、道内各所に魅力的な観光地が数多くあるため、様々なニーズに対応できる。また、旅行の楽しみの一つである食事についてもたいへん充実している。
広大な自然。(海、山、湖等)ゆったりしている。
借り上げバスで移動できるので、利用者への対応が行いやすい。
観光地が広い。それ程混まない。食べ物がおいしい。
毎年秋に施設行事として温泉一泊旅行を実施しています。今年に行く途中、果樹園により果物狩りなどして楽しみました。行った先で手頃な見どころや散歩する場所があれば旅行も一層楽しいものとなりますので、今後も工夫したいと思っています。
食べ物
食事～出かけた中で一番の楽しみ。メニューの内容も吟味して行き先等の調整ができる。
温泉街が多く、また移動もバスで行えることが魅力の一つであると思います。
大きい温泉がたくさんあること。
四季ごとの自然の景観を楽しめる。海産物や農産物などの食の楽しみ。
大自然。美味しい食材。温泉。
季節により全く違う景色が見れる事。
道内ならではの豊富な食材や地域性にとんだイベントなどの体験的な活動が可能である。
利用者の観光スポット等の社会資源を活用した活動の経験。
食材が豊富でおいしいものが食べられる。自然景観が風光明媚。
季節の移り変わり、新鮮な食材を使用した食事、温泉など。
食事と買い物が楽しめる旅行内容が魅力。
アトラクション。高齢者でも可能な体験活動など。
北海道の雄大な土地、自然を生かしたイベントが多い。
自然。体験活動。
自然を肌で感じる事が出来る。温泉地が多い。
豊かな自然
景勝地。食材。
観光、自然、美食、温泉など、旅行の目的となる資源が豊富。利用者にとって行き先のイメージがわかりやすい。
温泉が多く、食材も豊富。四季がはっきりして景色が美しい。
豊かな食材、温泉地が多い。
道路が広い
自然が豊かで、食べ物もおいしいものが多くあり、楽しみが広がる。

(2)「北海道内での宿泊旅行についての課題・要望」の回答結果

Figure5-3-2 は北海道内での宿泊旅行についての課題・要望について自由記述欄に記載された内容を分析し、各項目が記載されている記述数を表したものである。記述内容からキーワードを抽出し、その内容について項目をあげたところ、「施設のバリアフリー化」「道路・移動時間の課題」「宿泊施設や一般客の障害理解」「旅行の限界」「食事提供の配慮」「冬期間の課題」「利用者の費用負担」「イベントの受け入れ体制」「宿泊施設を探すのが難しい」「障害者用のプランの充実」「イベントが少ない」「施設内の移動に時間がかかる」「特色がわかりにくい」「バリアフリー状況の情報提供」「遊園地以外のテーマパークの充実」「柔軟に対応できるバスの活用」「天候に左右されない観光スポット」「安全面の配慮」「旅行先での病気、ケガ等アクシデントの対応」「個々の趣味などを生かしたツアー企画」「施設内で遊べるものが少ない」などがあつた。

最も多かった回答は「施設のバリアフリー化」について書かれたもので45件あつた。特にバリアフリー化について意見の多かったものは“トイレ”(15件)と“温泉(浴場)”(14件)について書かれたもので、トイレについては、宿泊施設内の身障者用トイレの設置や移動の際のトイレ休憩の課題(身障者用のトイレがない、場所が限られる)などの意見が多かつた。温泉(浴場)については、浴室のバリアフリー化(リフト設置など)や浴場の専用使用(家族風呂等)を求める意見が多かつた。

次いで多かったのは「移動時間が長い」について書かれたもので31件あつた。「旅行の限界」について書かれていたものは10件あり、“利用者の重度化・高齢化により移動時間や宿泊数を増やす事が難しいことから、旅行範囲が限られる”という意見や、“新しい観光スポットが少なく新たな旅行先を開拓できない”という意見もみられた。また、北海道ならではの「冬期間の課題」について書かれたものが5件あり、冬期間に利用出来る施設やイベント、観光などが無いことや交通状況についての意見がみられた。

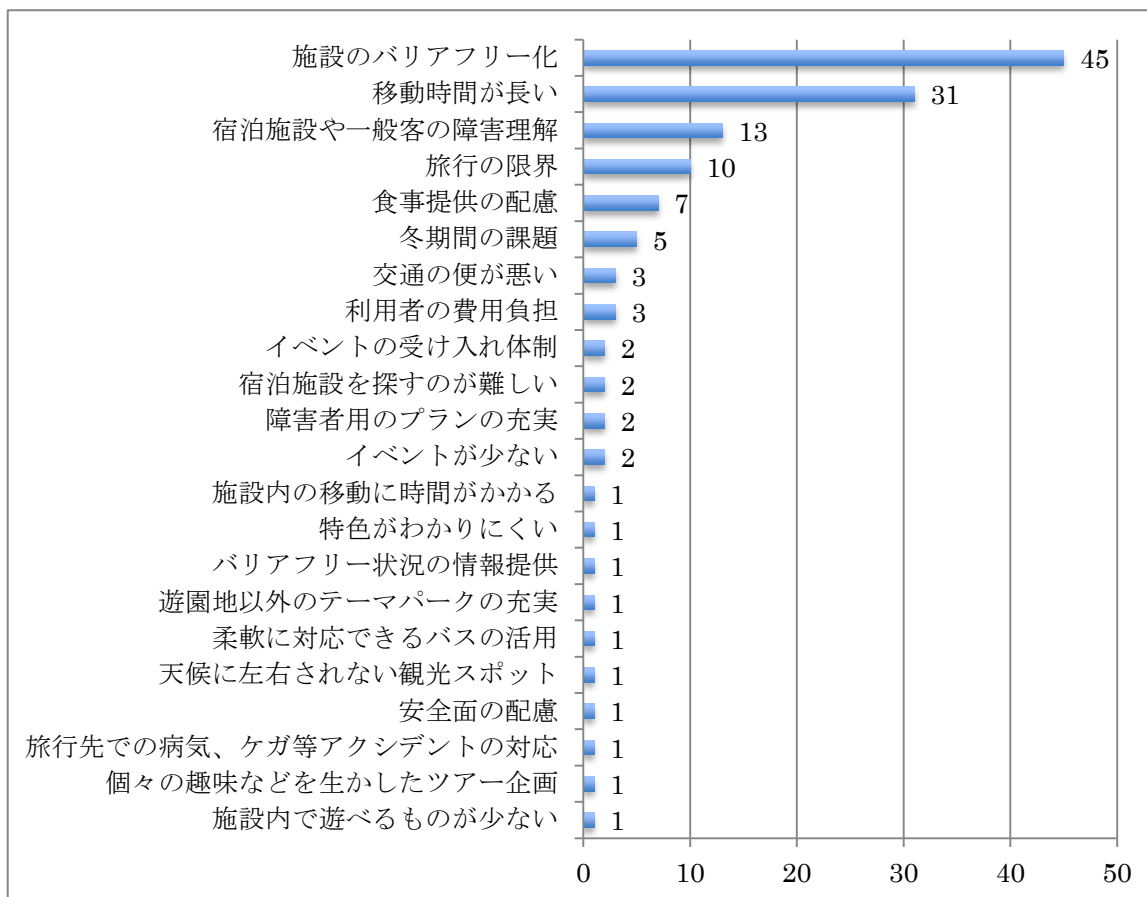


Figure5-3-2 北海道内での宿泊旅行についての課題・要望に関する各項目の記述数

北海道内での宿泊旅行についての課題・要望（自由記述回答）

宿泊施設のバリアフリー化がまだ不十分な施設が多く、（安価）、場所の選択に苦慮している。

寒さと移動時間の長さ

移動の際の体力

宿泊施設のバリアフリー化が整っているところが少ない

受け入れホテルや他の宿泊客の障害者への理解

特別な配慮が必要となる（温泉など）、例えば浴場の専用使用など

車いす利用者が利用できる宿泊施設が少ない

年々高齢化が進み、遠方ですと疲れがたまり体力的にも難しい。旅行の際は数力所の中から選択して頂いていますが道内の一泊だと限られてきます。

交通の便が悪い。

現地まで移動時間がかかる。大型宿泊施設内での移動時間がかかる（身障トイレ、風呂場、宴会場等）。小、中規模の宿泊施設でのバリアフリー化が少ない。

移動距離が有る。宿泊先の理解は有るところが多いが、他の客の理解はどうか。障がい程度から、体験的なものなどは難しく、見学のみになってしまうことがほとんどのほか、車に乗っているだけの時間が長くなってしまふ。

温泉施設(ホテル、旅館)等は、まだまだバリアフリー化されていない状況に思われ、温泉浴室、部屋の広さ等、電動車椅子でも余裕で利用できるスペースや機器等必要と思われる。

バリアフリー対応のホテルが少ない。

利用者の高齢化のため、遠出できず、せいぜい施設から50km 圏内が精一杯です。しかし、それだと出かける場所が限られワンパターンになってしまう。

移動に時間がかかり、心身共に疲れてしまふ。道外に比べて障害者へ対するサービスの意識が薄い。

宿泊施設の理解

各施設間、各市町村間の距離が離れていて、移動に時間がかかる。本州と比べると、移動にとられる時間の割合が大きく、効率的ではない。車椅子利用者が使いやすいような設備のホテルが少ない。

宿泊施設には階段が(段差)多いこと。障がいを持っている方が参加・見学することのできるイベントが少ないことと、及び、受け入れ体制が整っていないこと。

一泊二日の旅行日程が多く、一日で回れる観光スポットは行きつくした感がある。日程を増やすと利用者の金額の負担が増える。

観光地が隣町にないため移動に時間がかかる。

東京へ車椅子の利用者の方と一緒にいくと、公共施設の多くで北海道との違いを感じます。エレベーター、段差の解消、スロープの設置等、利用人数の違いを考えると北海道はまだまだとなっても止む得ないのでしょうか。入浴施設(特に温泉地)では、特に車椅子の方にとっては不便と感じます。

障害者が負担にならない費用や宿泊施設が必要

移動時間がかかりすぎる。遠い地域へは行きづらい。移動をいかに楽しめるか。

1、交通の便が悪い。(特に地方に行くと電車やバスの数が少ない etc...) ツアーの企画にレンタカーもしくは運転手付きタクシーで行く旅行。2個々の趣味などを活かしたツアー企画に宿泊をプラスすると良いかと思ひます。①絵を書くのが好きな人ツアー→写生会ツアー②料理体験ツアー③魚つり体験ツアー④登山体験ツアー

トイレの充実。高速料金の障がい者割引。

施設は道南に位置しているため道北の方に行くには遠すぎる。移動時間が長ければ利用者の方々があきてしまふ。

バリアフリーの宿泊施設が少ない。

遠方を希望する方の交通手段等。

毎年一泊旅行企画しているので移動距離も考慮すると新たな旅行先開拓できない。

温泉街などにた様な場所が多く、特色がわかりにくい。

高齢者が多いので宿泊施設やイベント、観光施設のバリアフリーの状況などの情報やコンサートや芝生などと一体となった宿泊プランなど。

利用者さんの障がい年齢を考えますと近くへの一泊旅行より実施が出来ません。温泉地を希望する利用者さんが多いが、一般風呂への入浴は難しい面があり、貸し切り風呂を提供して下さるホテル、旅館に限ります。

新しい目的地がもうなくなってきてしまった。重度化高齢化で日程に無理がきかない。内容の充実は価格が上がり、利用者の負担が大きくなる。

トイレ、通路の狭さなど、施設整備の整備が不十分である。

部屋、浴場においてバリアフリーの宿泊施設が少なく限られている。

100名単位でも行動できる施設が少ない点。食事の提供方法に利用者の特性を考慮されずに行われてしまう点。(話し合いの段階では出来るという話しであっても、現場での解釈には違いがある。)

障がい者の受け入れ理解。温泉施設で一般浴場(大浴場)の仕様を断られ、家族風呂を進められたことがある。料金も増大した。

障がい者に対する理解(ホテル側)が乏しい。

遊園地以外のテーマパークの充実。移動時間の問題。

移動時間がかかる。宿泊施設、受け入れ施設の理解。

移動時間が長いため、途中で飽きてしまったり、疲れてしまう。

宿泊施設、観光(見学)施設、共にバリアフリー化された施設が少ない。(特に宿泊施設はない)後付けでスロープを設置していても、階段がないだけで傾斜等きつく、車いすでの自走困難であったり、公共施設以外は車いす用トイレもない所が多い。

障害者用のトイレ設備が少なく感じる。食事等でミキサー食やキザミ食の対応ができること。車椅子等専用部屋が多くあること。入浴設備でリフト等の設置があれば…。

利用者の高齢化・重度化が進む中で(日常生活動作、個々のニーズ等)移動時間や用意に時間がかかりすぎたり、目的の場所がわかりにくかったりする。利用者のニーズも見えなかったりすることもあるので、企業側も障害者用のプランが豊富に合ってもよいと思う。

利用者の高齢化・重度化が進む中で(日常生活動作、個々のニーズ等)移動時間や用意に時間がかかりすぎたり、目的の場所がわかりにくかったりする。利用者のニーズも見えなかったりすることもあるので、企業側も障害者用のプランが豊富に合ってもよいと思う。

JRなどの利用が難しく、柔軟に対応できるバスの活用が望ましい。利用者の体力的なものへの配慮が必要である。

天候に左右されない観光スポット。車イスが利用しやすい環境。(車イストイレ、車イスで入れるおみやげ店、レストラン等)

入浴時の介助・設備に不安が多い。リフト等の設備がないと入浴できない利用者がある。調査不足もあるが、スポーツ、音楽イベントは札幌であっても豊富にあるわけではなく、旅行の目的としたいが、日程等で調整しきれない。

移動する時間が長いため近くの、又は同じ様なところになってしまう。宿泊先のホテルで使いづらいところがある。(段差、お風呂場など)

移動時間がかかる、障がい者に対する理解。宿泊施設、旅行会社の配慮、対応についてよくしてほしい。

移動に時間がかかるので旅行範囲が限られる。

利用するホテルのバリアフリー化が進み大変利用しやすくなったが、一部大浴場の階段だったり、客室用トイレが狭く車イスの利用がしづらいことがあった。また、車イス用トイレの数も少なく利用しづらいことがあるため増設してもらいたい。

ハード・ソフト面でそれなりに障害者に対する配慮はされているが、それでも多くの人で混雑するイベント、設備においては障害の重たい利用者にとってリスクの高い場所となってしまうため、企画する職員、旅行会社側が十分に配慮したプラン、日程を考えなくてはいけない。

特殊浴場の設置。車イス利用者も乗れるバス。

移動時間がかかりすぎる。

移動時間の長さ。新しい観光スポットが少ない。宿泊施設が限定(バリアフリー、人数規模)。季節が限られる(冬の観光が少ない)。道外に気軽に行けない(交通機関、距離の問題など)。

移動時間はせいぜい2時間以内の場所に限られてしまいます。また、宿泊先での家族風呂の利用など配慮してもらうことも重要な点で、もちろん身障者トイレもきちんと何力所か設備されていないと利用は難しくなってきます。宿泊先や訪問・利用先のバリアフリーがしっかりとしていて、従業員の方々の理解や温かい対応が必要だと考えています。

施設設備のバリアフリー化が進んでいない。

体力面の年齢層を考慮した時、調整の難しさがある。(時間、日数、行程)

移動時間が長く団体で行動するため、細かくトイレ休憩をとるので、トイレタイムを大人数で取れる場所を考えて移動しなければならない。そのため、そういった場所をふまえ企画しなければならない。

宿泊施設等が「バリアフリー化になっている」とうたっておきながら、実際は階段がたくさんあったり(一、二段ぐらいなら全く問題ないと思っている方もいる)等、利用する方との感覚のギャップがある。

温泉その他、見学施設～段差等の移動の困難性と安全面の確保。食事環境～バイキング等～一般客との混合型の環境における、利用者の障がい特性との温度差や支援の困難性。

宿泊施設のバリアフリー化。特に、浴槽の整備を期待したい。宿泊施設の食事。カロリー制限食、きざみ食の対応。

課題として障がい者や高齢者に対する、交通機関の環境整備の遅れ、公共トイレ間の距離の長さや、視覚や聴覚障がい者への環境整備が不十分なこと。バリアフリー化の遅れ。

坂道。でこぼこ道など移動困難な方へのバリアフリー。各地のトイレのバリアフリー化。バスの乗車、車内、エレベーター、エスカレーターなどのバリアフリー。温泉内の床など。車イスで入れる温泉。

私達の施設では、高齢化が顕著になってきている為、利用者さんのニーズに沿った遠方の地域へ行く事がなかなか困難であり、イベント等に合わせた旅行を検討しても近隣で合致したものが少ない事とイベントがあっても、土日での開催であるため、職員配置も考慮すると難しい面がある。

障がいの特性上、受け入れ先の理解も必要。

旅費等の利用者の負担。移動の安全面の配慮。旅行先での病気、ケガ等アクシデントの対応。

移動距離が長く、利用者の体力がもたない。自然は多いが車椅子の対応が難しい所が多い。

移動距離が長く、利用者の体力がもたない。自然は多いが車椅子の対応が難しい所が多い。

トイレ設備が不十分。身障者用トイレがまだまだ不足です。移動時のアップダウン。階段に配慮のない所が少なくない。

宿泊先での介護設備。

高齢者に対応出来る食事・献立の種類・内容の多様性が必要、同じメニューでソフト食Ⅰ、Ⅱ等の対応が出来る宿。バリアフリー化。

摂食、嚥下状態の良くない人や、糖尿病、腎臓病の人等が多い為、きめこまやかな食事を提供して下さる施設はとてありがたいです。

雨天時、冬機関利用出来る施設を増やして欲しい。

障がいに合わせて活動を増やして欲しい。秋から冬(11月頃)のイベントが少ない。宿泊施設内で遊べるものが少ない。

移動距離が長いこと。観光地だからこそ道路の整備が進まず、障がい者行けない場所が多い。(道が狭い、段差等…)車椅子等だと更に限られた所しかない。

障害者用トイレの増

1~2泊の行程では距離的に行ける所が限定される。バリアフリーではない観光スポットや温泉施設が意外に多い。

移動距離が長く、時間がかかる。冬期(12~3月)は交通状況悪く、計画出来ない。バイキング形式の食事が難しい。(他の客に迷惑)

宿泊施設の理解。

バリアフリーの温泉旅館を増やして欲しい。(風呂等)

レジャー施設や観光スポットにおいてまだまだバリアフリーがなされていないように感じる。(例、身障者トイレがない、坂道や段差が多いなど)

高速道路等整備されてきているが、移動に時間がかかる。トイレ等の施設がバリアフリー化されていない事が多く見られる。

移動時間。トイレタイムの場所。受け入れ施設の理解。

一番の問題は、トイレで、道内でも限られた所にしかトイレがない。又、障害者用トイレが少ない。

(3) 「宿泊旅行を企画・実施する上で留意している点、宿泊旅行についての考え」の回答結果

Figure5-3-3 は宿泊旅行を企画・実施する上で留意している点、宿泊旅行についての考えについて自由記述欄に記載された内容を分析し、各項目が記載されている記述数を表したものである。記述内容からキーワードを抽出し、その内容について項目をあげたところ、「利用者の体調（健康状態・体力面・障害特性）」「活動（日程・内容・時間）」「利用者のニーズ」「宿泊施設のバリアフリー」「安全面の配慮（事故防止・急変時の対応）」「移動（距離・時間・過ごし方）」「食事（提供方法・食事場面の配慮）」「費用（利用者・帯同者・家族の理解）」「実施が困難」「入浴（設備・支援時のリスク）」「排泄（設備・トイレ休憩）」「マンネリ化」「スタッフの確保」「事前準備」「定期的に実施したい」「道外・国外への旅行」「少人数での実施」「情報収集・提供」「家族旅行」「家族の体調（健康状態・体力）」「混雑・待ち時間をさける」「利用者の笑顔」「その都度目的を決める」「同じ施設を使って馴れる（安心）」「学校の長期休業日を利用」「障害者専用の旅行プランがあれば…」「多様なニーズを反映した企画求む」「他の客への配慮」「人・環境の設定」「ホテル従業員の対応」「マンツーマンの対応」「危険な場所が多く利用しづらい所が多い」「制限が多くリスクが高い」などがあつた。最も多かった回答はであり、「利用者の体調（健康状態・体力面・障害特性）」で24件あつた。次いで多かったのは「活動（日程・内容・時間）」で21件であつた。

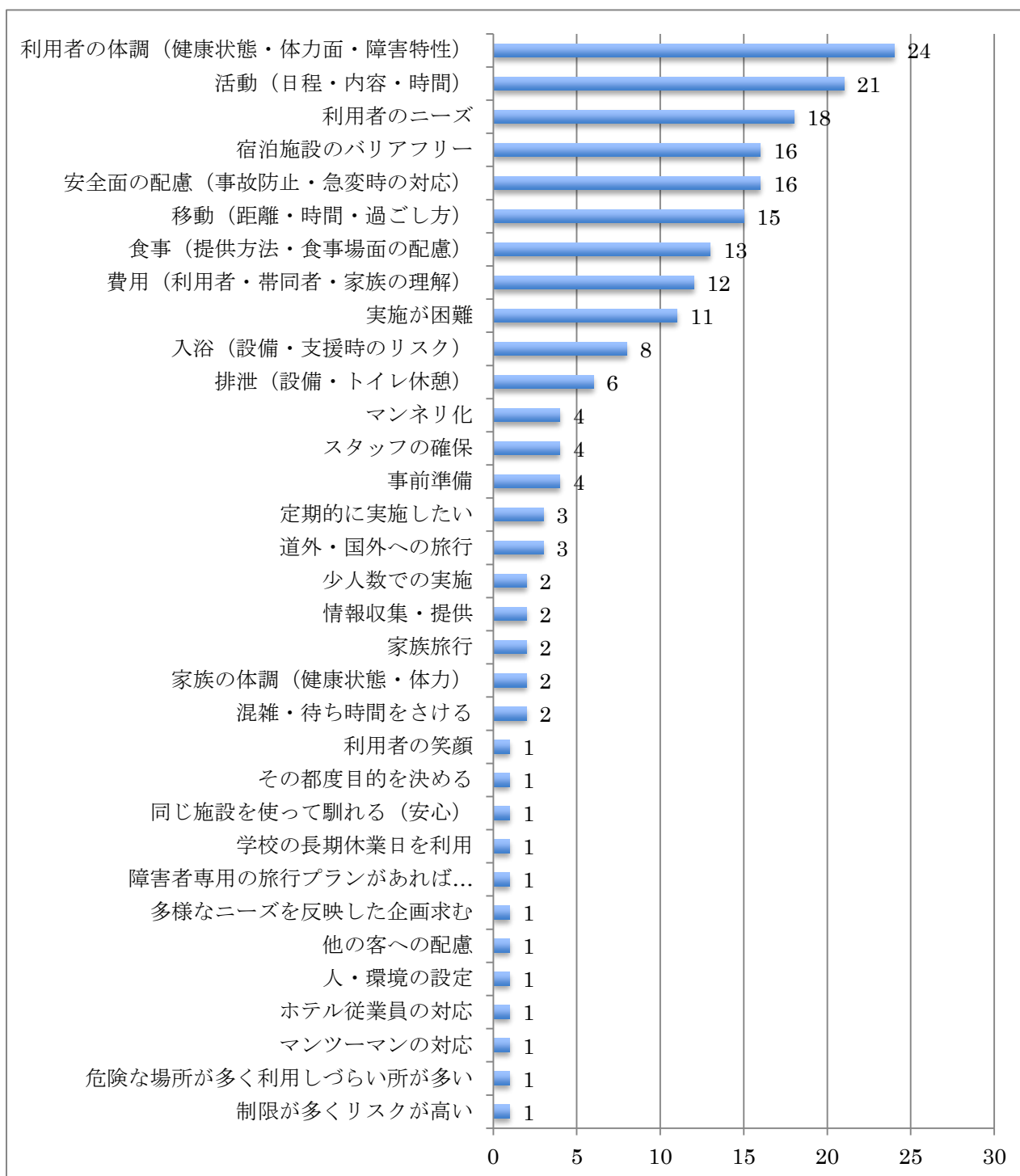


Figure5-3-3 宿泊旅行を企画・実施する上で留意している点、宿泊旅行についての考えに関する各項目の記述数

宿泊旅行を企画・実施する上で留意している点、宿泊旅行についての考え（自由記述回答）

移動に費やす時間はできるだけ短く。ハード面のバリアフリー化。食事に対する配慮(きざみ食等)。費用について。
環境の変化に伴う心身の変化か急変時の対応力
利用者・家族の健康状態と体力面。交通等の移動時間。参加者のニーズ。日帰り旅行は年齢や障がい程度を考えても体力面で問題有り
利用者の高齢化が進み、負担をかけずに楽しめる旅行を企画していきたいと考えています。
利用者が家族を招待し(プレゼント旅行)、多くの参加が期待できる。
費用については自己負担にしていますので、金額面では、どなたでも支払い可能な範囲とさせていただいています。旅行は楽しみにしておりますので、皆様のアンケートをもとに実施しています。また、数力所の中から選択して頂いて、御希望にそえる様配慮しています。
宿泊旅行は、利用者の希望をとり年に一回少人数での一泊旅行を企画しています。道東に住んでいますので利用者の方とはとにかく都会を希望し、少々マンネリ化になりつつあります。色々な情報を提供し、企画作りに頑張っています。親子旅行を実施していますので年一回親子でゆっくりと温泉に入りおいしい物を食べ交流をはかっています。コミュニケーションの一部になっている。
片麻痺、車椅子利用者が多い為、部屋(トイレ)の段差には踏み台、浴槽の中の段差(踏み台)、手すり等の設置の確認、身障トイレの有無が必要である。
食事場面で他の客から少し離れた場所の確保(大声での発声がある人もいる為)
利用者の方々が大変楽しみにしている企画なので、利用者の要望も参考にしながら続けていけるように努力して実施しています。(候補地については、周辺観光資源も考慮して決めたい。)
以前は3年ごとに海外を含めて大がかりな旅行を実施していましたが、自立支援法に改正されてから報酬が月額から日額に変更され、施設の収入に影響される事から以後実施を見送っている。又、職員だけでは介助の手が不足し、保護者の協力もあり行っていたが、高齢化により困難となっている。
利用者それぞれの障がい特性に合わせた企画・グループ構成
当施設は以前、宿泊旅行を利用者自ら企画し実施しておりましたが、ここ数年は全く実施しておらず、日帰り旅行すら行えておりません。利用者の方々の希望を聞いたところで、職員不足といった現実もあり希望を叶えてあげられない状況にないのが現状です。
普段体験できない事が体験、体感できる事
利用者さんの笑顔

<p>当施設では、毎年宿泊旅行を一回行い、その他で、節目の年に道内、道外など利用者の希望をとり、宿泊旅行を行っております。以前は、引率職員も少なく、一般の方と同じような旅行をする事ができましたが、最近では利用者の重度化、高齢化に伴い企画をする上での制限が多く、リスクが高い行事になっています。旅行前は、緊急時対応の病院を調べ、何か合った場合には、施設に戻る利用者、職員を検討するなどをし旅行へ行っています。</p>
<p>グループごとに近郊、長距離と分けて実施しているが、利用者によっては、同じ施設を使って馴れる事によって安心して利用出来るプランを検討している</p>
<p>事故防止</p>
<p>私共の施設では、利用者からのニーズを大切にしています。毎年の旅行で留意している事は、利用者のニーズに添った旅行を提供する事が、大前提の中で、引率体制(事故・怪我)を大切にしています。利用者が事故・怪我なく楽しい旅行を行う事が一番良い事だと思っています。</p>
<p>高齢化した利用者が疲れすぎて旅行を楽しめないということにならないようスケジュールをつめすぎないようにしている。</p>
<p>利用者の方達が楽しめる場所や物があるか。バリアフリーが充実し、利用者の負担が少ないか。施設からは離れて過ごすことは負担もあるが、心身共にリフレッシュできるため、定期的に行っていきたくと考えている。</p>
<p>安全面の配慮、日程を障がい程度や特性により無理のない物となるよう計画する。宿泊旅行は以前は利用者も職員も楽しみにしていた行事だったので、条件が整えば是非実施したい。</p>
<p>知的障がい者施設も、高齢化がどんどん進んでいます。車椅子、介護度が上がっても、旅行という考えも大切ですが、これまで考えてきたように、やはりそういう状態になる前に年に一回は旅行を、数年に一回は道外旅行をとということの方が、現実的だと思います。しかし、措置から契約制度になってからというもの、施設を利用するための自己負担額が大きく、旅行をするための蓄えがないという状況にあります。(具体的には現在 30 代以降の人たち)</p>
<p>利用者が楽しめる内容や場所を企画し、安全面に配慮をして実施している。</p>
<p>入所施設ですが、旅行については利用者の希望が最優先としています。その中でも何が一番になるのか、温泉、食事、買い物、イベント等々のニーズに合わせて選択してもらいます。ニーズによって 10~20 名のグループになるケース、マンツーマンになるケース等様々です。もちろん、宿泊か日帰りなのかも同様にニーズに合わせて企画しています。</p>
<p>食事、入浴、排泄</p>
<p>参加者の情報や体調。障がい特性(苦手なもの、場面、音、空間)。預貯金のある方は希望をかなえられるが、そうでない方は難しいこともある。同行する支援者の費用。</p>

<p>北海道の魅力はまだ沢山あるように思います。情報雑誌も増えて、色々な旅行企画などに目を通しますとその内容も多彩になってきて、選ぶ内容が増えてよいと思います。今後より色々な人々とニーズを企画に反映されると良いかと思います。</p>
<p>障がい児入所施設ですので、学校の長期休業日を利用しています。</p>
<p>利用者の希望に沿う場所の選定をする。利用料金の低減化。</p>
<p>移動距離、見学できる場所かつ、利用者の方々があきることなく楽しむことができる場所、普段体験することのできない事(遊覧船に乗るなど)を留意しています。</p>
<p>利用者の希望を取り入れながら、無理のない計画を立てる。</p>
<p>身体的に無理のないように考えています。</p>
<p>安心・安全かつ楽しめる様な計画立案。</p>
<p>皆さんが楽しめるように、人、環境等の設定が必要。年一回、楽しみにしている方が多いです。</p>
<p>利用者の希望に沿った計画をたてているが、体力や健康状態にも配慮が必要で、宿泊ホテルバリアフリーの状態や行程、交通手段などを含め苦慮する事が多い。</p>
<p>私共の施設は、利用者さんの旅行は個人負担で行っており、あまり経費をかける事が出来ません。常に留意しているのは、好き嫌いが多く利用者さんがおり、食事とお風呂には特に気をつけております。</p>
<p>新しい宿泊施設(バリアフリーの確認)の企画を組む日程に余裕をもたせる。食事の充実。数年に一度は道外を企画する。</p>
<p>現地で下見を行い、綿密なスケジュールを作成している。</p>
<p>利用者さんの年齢や身体状況等に応じた旅行先、タイムスケジュール等無理なく楽しんで旅行できるように配慮して計画を立てています。宿泊を伴う旅行は、利用者さんが最も楽しみにされている一大イベントですので、引率職員も利用者さんが十分楽しめるよう移動中等も工夫しています。</p>
<p>同行スタッフの確保(勤務状況、施設待機職員等の確保も考慮)。バリアフリーの施設かどうか(主に部屋、浴場、食事場所)。移動手段の確保(施設のバスの貸し出し日数が限られているため)。宿泊先で必要な物品の準備(日常的に使用している物、緊急時用品、介助時の必要物品)。</p>
<p>近隣である事。医療がすぐに受けられる事。</p>
<p>入浴支援時のリスク。導線がスムーズ(トイレなど)。食事どころの混雑。利用者の病状にあわせた食事提供。</p>
<p>食事どころの混雑。旅費は安く、食事に充実感。</p>

<p>サービスの形態や他事業所へ通っている方など考えると宿泊を皆へ提供することが人、モノ、財的に困難である。特にお金の持ち出しをどうするのかは大きな課題。日帰りであれば、生活介護サービスの一つとして、外出先を共に考え企画し、温泉や動物園など、近場で対応することは可能だが、個別対応で一人一人に合わせた計画となると、事前準備が大変である。又、旅行よりも日用品の買物のニーズが大きく、年4～5回外出することだけでも、スタッフ確保に苦慮しているところである。</p>
<p>付き添いの職員の確保が困難であり、利用者の健康、ADL 面からも実現は難しい状態です。</p>
<p>できる限り、混雑している日程はさけて、待ち時間等ができるだけない旅行プラン。</p>
<p>留意している点は、各観光地の体験・見学の育実した施設・温泉を選び、また利用者にあまり負担のかからないコース選びをする。</p>
<p>利用者の希望を優先し、その希望の仲間(少人数)で出掛けられるようにしている。(※大人数だと、いかにも施設らしいという見られ方になってしまうため)</p>
<p>利用者の健康</p>
<p>見学場所や宿泊施設の設備、移動距離や時間など余裕を持った内容が提供できるよう配慮している。年齢の若い方と高齢の方が同じ行程で一緒に行くと厳しい面もあるためそれぞれに合った行程が提供できれば良いと思う。</p>
<p>重い知的障害があり、旅行へ行く？行かない？との問いかけに答えられなくても、旅行先では普段見られない笑顔や反応で、旅行を楽しめている事を実感できます。したがって、できるだけ様々な体験をしてもらうために宿泊旅行はさせてあげたいと思いますが、日々の業務で忙しい職員が業務の合間で企画を立案する事で、その力不足のため、旅行の実施にまでたどりつけない年もありました。旅行会社を通すという手もありますが、施設の立地条件からコンタクトを密にとることも難しいです。費用もはねあがりそうですし…。</p>
<p>宿泊旅行は利用者の体力との兼ね合い、また道中、宿泊先でのトイレ、入浴設備、特別食等の対応の有無を考慮しなければならない。日程等を考慮すれば2泊以上でゆっくりと楽しみたい所であるが、施設現場の人員問題や利用者自身の金銭・体力的な問題から難しいことだと感じている。障害者専用の旅行プラン等があればと思うところである。</p>
<p>留意している点、利用者が安全であり、余暇(旅行)を楽しめること。入所生活の中で宿泊旅行は日常生活の変化となり、旅行を通して本人を知ることができる。また共感できる場面が増えることで利用者、支援者の信頼関係もつくれる機会でもある。</p>
<p>職員からの情報収集。利用者への十分な説明。費用が高くなることにより家族の理解が難しくなる。(本当に楽しめているのかなどの発言がある)</p>

<p>ホテル、レストラン、車イスで入れる部屋の入り口、トイレ、段差、エレベーターの広さなどの設備の充実。車イスで出かけるための車輛が不足している(大型バス)ので、団体で出かけることがむずかしい。上記のことから、バリアフリー化はまだまだ遅れているため、車イスの方が旅行しやすい環境になることを望みます。</p>
<p>職員以外の旅行付添い(ボランティア)においては、交通費～宿泊代などを利用者が負担することになり経済的負担が大きい。</p>
<p>企画では、利用者の意向を前提にしながらも、新しい経験ができるよう、様々な提案をするよう心掛けています。実施においては、馴れない土地でのアクシデントを回避するため事前準備等に力を入れている。</p>
<p>館内がわかりやすいか、バリアフリーになっているか、食事など…。旅行先に楽しめるものがあるか…。(水族館、動物園、観芝地など)</p>
<p>利用者のニーズをなるべく取り入れつつ、負担にならない行程作り。低コストでの実施。</p>
<p>トイレ休憩の回数を多く設定している。引率職員が増えると利用者負担が多くなってしまう。</p>
<p>アンケートⅢにも記載しましたが、参加する利用者に合わせた旅行を企画し、その都度旅行の目的を決めながら内容を考え実施しています。宿泊旅行は、年に何回も行えないため利用者も毎回楽しみにしている。行事のため全員が参加し楽しめる内容を心掛けています。</p>
<p>入所利用者の高齢化、障害の多様化を考慮し、安全且つ体力面について配慮しているほか、限られた範囲でも旅行プランがマンネリ化しないよう、旅行会社とは綿密に打ち合わせをしている。今後は従来通り、何年かに一度は道外、海外への旅行を企画するほか、利用者に新鮮な体験をしてもらえよう、観光地めぐりだけでなく、職員の趣味や体験などからヒントをもらい、新鮮な旅行プランを計画していきたい。</p>
<p>利用者の安全と健康面、本人の体力や年齢など。</p>
<p>利用者個々の能力や障がい、体力に合わせたグループ分け。宿泊施設等の食事の対応。(刻み食、ミキサー食、トロミ対応等)年齢、体力に合わせた旅行プラン内容。</p>
<p>遠方にならないこと。移動、休憩を含めて2時間前後の場所。</p>
<p>親と利用者のニーズの違いを理解し、取り入れる。高齢化により、観光は手軽に短めに、ホテルでのんびり。バイキング食を減らす。きざみ食、おかゆ食への対応。</p>
<p>IVで記載した通りです。支援する側が、一致団結して利用者の方々に充実した楽しい時間を過ごしてもらうため、企画し、取り組むことが一番大切です。バリアフリーなど色々な点を考慮しなければならないため、宿泊先や訪問先は限られてしまうことにもなりがちですが、多少不便さがあっても少しずつでも目先を変え行く先も同じ所にはなるべくならないようにと頭を悩ませながら実施しています。</p>
<p>利用者の安全の確保。個々に合わせたバリアフリー度。利用者の重度高齢化で年々外出が難しくなっています。また、障がい等多様になり、集団行動が難しい状態です。経済的に厳しい方もいて、利用者さんが一律に宿泊旅行は困難になっています。でもみなさん行きたいんですよね…。</p>

<p>費用面～年金が主な生計である為、少しずつ貯蓄していく必要がある。大きな金額になると、コンスタントに旅行は出来ない。情緒～環境に敏感な人もいる為、調整が難しい。(出かけることで負担になる人もいる)社会性～社会資源を活かし、参加していく為にも旅行は必要である。その上で利用者の状態像に合ったプランを組んで実施している。(組み分けあり)</p>
<p>最も大事なことは、職員の確保で職員の気遣いがあれば実施出来ると思う。職員がたくさんいることで、手厚い支援ができるし、気遣いもできる事で利用者の方の父母が楽しい旅行が出来るため。</p>
<p>建物の階段。店内が車イスで移動しやすいか。</p>
<p>利用する人の希望や意向への十分な配慮。安全性、便利性。旅行日程の効率性。</p>
<p>他のお客様に迷惑をかけないようにすること。破損、無外(無断外出)。情緒不安定な利用者に対するの対応等がきちんとできるか。</p>
<p>車椅子でも行くことが出来るか。宿泊施設などバリアフリー対応になっているか。行き先までの休憩箇所のトイレは使用しやすいか。旅費に関して、本人(利用者)・家族の理解がえられるか。</p>
<p>利用者の意向。家族との旅行においては、家族との日程や移動の距離や時間。</p>
<p>安全で楽しい旅行を実施出来る。大自然の中の施設が近くにあるとよいと思う。</p>
<p>利用者の高齢化、重度化に伴い、旅行のないようについてはあまりハードなスケジュールにはせず、利用者が余裕を持った中で参加出来るように心掛けている。</p>
<p>体験型の旅行と企画する様考えているが、なかなか合致したものがない状況でもあるが利用者さんが実際に手を触れたり出来る様な旅行内の箇所を模索したり、コンサートなど利用者さんのニーズにかなう様な場所の選定を心掛けている。</p>
<p>利用者のニーズの把握。健康面、体調面に配慮した企画。</p>
<p>帯同職員の負担を考えると、今後、宿泊旅行は一切ないと思う。</p>
<p>利用者様のニーズがあれば、身体的な負担を少なく、また、職員に負担をかけず実施出来れば尚良いと考えます。</p>
<p>利用者の希望をベースに、体力や、設備面での利用しやすさ、設備面…部屋の利用や風呂の利用、移動のしやすさ。ホテル従業員の対応ぶり(旅行会社や実際に利用した事のある職員の評価等も大事)いろいろな点で柔軟に対応してくれる宿が一番。</p>
<p>当施設では、視覚障害、知的障害を併せもっている方々の利用者さんがほとんどです。残念ながら全員行けないのですが、できるだけ参加してもらい、マンツーマンの対応で行っています。利用者たちは、毎年宿泊旅行には、楽しみにしております。行けない方々は日帰り旅行で対応している。企画がマンネリしている事が否めないで、道外旅行も検討中です。</p>
<p>・施設設備、バリアフリー。体感出来る景色、施設、イベント。ゆっくり楽しめる施設(1箇所がたくさんいろんなものがあると良い)</p>

<p>高齢の方々であるため、宿泊地をなるべく変えず、そこを拠点にし、見学地を回るといった移動の少ない計画をここ最近は立てています。(体力的に無理のない様に)</p>
<p>利用者さんに無理のない余裕を持った行程、宿泊旅行については、利用者さんの高齢化、障害の重度化に伴い年々大変になってきています。帯同スタッフの確保も。遠方でなくとも楽しめる様な旅行の行き先よりも内容重視になってきました。</p>
<p>利用者、ご家族の希望を聞き、行き先を決めている。移動等で疲れないよう行程に余裕を持たせたり、ホテル着を早めにしている。又、朝の出発も遅めにしている。旅行先に関する情報を出来るだけ多く早く利用者へ提供している。</p>
<p>日頃の環境との違いによるストレス、高揚などで通常の行動とは違うことが見られる。適応出来ない、本人の行動特性から一層の注意が必要となる。外出先で制止や待機の場面が多くなるため、人込みをさける傾向にある。</p>
<p>観光地、宿泊先に人が多く、引率、掌握の必要人数は年々多く必要になっている。</p>
<p>利用者さんの保護者の高齢化に伴い、一泊旅行の希望は強くなってきている。利用者の障がい程度区分が高い方が多い為、24時間気を使っているため、職員の対応、疲労が大きい。安全な計画を立てると、マンネリ化したプランしか実施出来なくなっている。</p>
<p>ハード面(部屋の広さ、エレベーターの広さ)。料理の内容。バリアフリーか否か(浴室の深さ、段差等)</p>
<p>利用者全員が楽しめる内容を企画するようにしているが、年齢・障害の程度に差があるため、行程に対して利用者全員が満足しているとはいえないのが現状である。ひとりひとりのニーズに沿った旅行を行う為には、少人数のグループで職員数と行程にゆとりが必要なのではと感じる。</p>
<p>利用者もとても楽しみにしている行事なので、つづけて行きたい。利用者の重度化、高齢化にともない、移動や宿泊する施設について検討している。</p>
<p>障害者支援施設は制度の流れ等から、重い障害の方の利用比率が高まりつつあり、宿泊における介護者の必要度も高まっております。人材の確保の困難さ、介護者の宿泊費等の費用、人材費、医療スタッフの確保や旅先での医療機関との連携等、大きな課題が存在すると思います。様々な課題を解決し、実施出来る事を願っております。</p>
<p>10年ほど前は宿泊旅行も行えましたが、高齢化と重度化により日帰り旅行が精一杯です。宿泊旅行はやはり受入施設の対応が万全でないと難しいと思います。</p>
<p>宿泊の場合は、危険な場所(特に2階の窓の開閉、階段)などで障がい者の方が利用しづらい所が多い。</p>

アンケート調査へのご協力、本当にありがとうございました。